



AA日本ニューズレター

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F FAX 03-3590-5419

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

No.67

98年全国評議会へ向けて テーマ：《原点を求めて》

—グループの良心を全国へ……全体サービスを確かなものに—



各地域では、新評議員の選出、そして本年度で退任となる評議員との引き継ぎが順調に行われているところだと思います。また、各地域検討課題についての意見集約や、全国評議会へ向けての問題提起等についても活発な論議が行われていることと思います。

上記のテーマの通り、各グループが全国のサービス構成に関心を持って、すでに苦しんでいる人たちへメッセージを伝えることが、わたしたち一人一人の回復のために必要だと考えます。7度のGSMと2度の評議会の経験を、将来を見据えた全体サービスにどのように生かすことができるのかが、今後の評議会に問われているのではないのでしょうか。

常任理事会、評議会と、形はできたものの、まだ十分にその機能が働いているとは言えないでしょう。

それぞれの役割、責任などについて検討しなければならない問題が、山積みされています。事務局も手探り状態が続いていますが、各評議員の協力の中で、'98年度評議会プログラム骨子計画を作成い

たしましたので報告させていただきます。

2月6日(金)

受付 10:00 ~ 11:30

評議会委員会 11:00 ~ 12:30

昼食 (各自で)

全体会議 13:00

全体会議 ~ 14:30

全体会議 15:00 ~ 18:00

・オリエンテーション・開会宣言・97年度事業報告・97年度決算報告・98年度事業計画説明・98年度予算計画説明

夕食 (申込者) 18:00 ~ 19:00

常任理事会委員会分科会 19:00 ~ 22:00

評議員はこの時間帯のなかで複数の分科会に参加できます。

ただし参加の際、質問項目はあらかじめまとめておいてください。なお、評議会委員長はできるだけ該当分科会に出席してください。

2月7日(土)

朝食 (申込者) 7:00 ~ 8:00

評議会委員会分科会 8:00 ~ 12:00

各委員会の課題について

昼食 (申込者) 12:00 ~ 13:00

全体会議 13:00 ~ 14:00

・WSM, AOSM 報告

・地域からの報告「AAができること、できないこと...あなたの地域では」

新全体サービス常任理事A類：笹隈みさ子先生(弁護士) B類：小泉氏(関東)に決定

A類(ノン・アルコール系)常任理事：森岡洋先生とB類常任理事2名の任期満了に伴い新常任理事2名が決定しました。A類常任理事をお引き受けくださいましたのは弁護士の笹隈みさ子先生で、AAの共同体のサービス活動の中では全く未知の分野の方に協力者になっていただくことができました。...

B類全体サービスの常任理事は2回に及ぶ選出選挙の結果、関東の小泉氏が当選しました。

地方選出 西日本圏 常任理事の選出選挙は12月2日に2回目の投票結果が出ましたが、まだ当選者が出ていません。

夕食 (申込者)	18:00 ~ 19:00
全体会議 V	19:00 ~ 22:00
各委員会に基づき、審議、採択、承認等	
2月8日(日)	
朝食 (申込者)	7:00 ~ 8:00
全体会議	8:00 ~ 11:30
各地域からの全体会議での分かち合い希望事項について	
後片付け / 解散	11:30 ~ 12:00

以上のような日程、内容での開催予定です。現在、評議員、常任理事からのレポート、報告書、必要な資料などをまとめる作業に取り掛かっているところです。限られた日程の中で有効な討議が行われることが事務局の願いなのですが、思いはあるものの力不足は否めず、十分な資料の作成はできません。ど

うぞメンバーの皆様にぜひサービスマニュアルに目を通していただきたいと思います。もちろんAA日本サービスガイドにも。そして全国評議会が各グループとどのように結ばれているのか、AAがすべてのアルコールクの回復に役立ち、未来のメンバーの回復をも確保するために、わたしたちができることは何か...今日一日のプログラムの中に、個人の回復はAAの一体性にかかっていることを常に忘れずにいたいと思います。

なお、事務局は評議会開催時だけのものではありません。年間を通して活動を続けていますので、いつでもメンバーの皆様の愛と力をお待ちしています。どうぞよろしくをお願いします。(評議会事務局)

ビッグブック(原本)第4版の発行に向けて その歴史を振り返る

— G S O 発行ニューズレター, BOX459, VOL.43, No.5 から —

1997年の全体サービス評議会にて「“ビッグブック—アルコールクス・アノニマス”の第4版についての草案をつくり、その中間報告を1998年の評議会出版委員会に提示すること」が勧告決議とされた。

1995年の評議会勧告決議で明記された条項、つまり、最初から164ページまで一序文、初版、第2版、第3版の序、医師の意見から「ポブ博士の悪夢」、付録一については手をつけないことが今回の決議でも繰り返されている。さらに、「ビッグブックの第1、第2、第3版で採用されなかった個人の物語りを掘り出す作業をし、その中間報告を98年の評議会出版委員会に提出すること」も97年の勧告決議で要求されている。

AAの基本の書と言われるこのビッグブックほど、AAのメンバーが熱意と関心を寄せる本はないといえる。1937年の晩秋に、AAの共同創始者のビルWとドクター・ポブが、ポブとアン夫妻の居間で“本談義”を始めたあの場面があざやかに目に浮かぶというメンバーはたくさんいることだろう。それから数年してビルは、テキサスのフォートワースで講演をした際に、次のように語っている。「あの部屋でスミシー(ドクターポブのこと)とわたしは人数を数えはじめた。アクロンとニューヨークで一体何人が酒をやめただろうか。クリーブランドで

も何人かいるはずだ。はっきりした数は分からないが、全部でおそらく35人か40人ぐらいになった。これだけの数とはいえ、ほとんどの人が命を落としているアルコールリズムという状況を考えると、それがどれほど重大な意味をもつかが分かってきた」

ビルは続けた。このとき初めて、「ポブとわたしはこの方法がうまくいくと確信できた。そのときわたしたち二人をとらえた高揚感と興奮を、決して忘れることができない」。しかしほんの数十人の酔っ払いが酒をやめるのにまるまる3年もかかったということは、その陰に限りない“失敗者の数”があったはずだ。「アルコールクたちにわれわれのメッセージをいっただうやって伝えたらよいのだろうか。そしてどのような方法をとればよいのか...? いっただうすれば、この希望の光を、そのままのかたちで、歪曲されずにメッセージとして伝えることができるのだろうか?」

そしてこう述べている。「そこでわたしたちは本を出すことについて話し合った。18人の誠実で善良なメンバーたちからなるグループの良心は、当然のことながら、そんなことは非現実的で、不可能なことに反対した。そして口をそろえて言った。「簡単にしよう。本を作るとなったら、金銭問題が入り込むことになる。有給の専門領域が作りだされることになる。わたしたち全員の破滅だ」。わたしは

こう応戦した。「いいところをついている。確かに一理ある。しかし現にこのまわりでも、たくさんのアルコールクがハエのように死んでいるのだ。これまでの3年間以上に事態が改善されないとしたら、オハイオのアクロンの郊外にまでメッセージが届くのに、これからまだ10年もかかるだろう。いったいどうやってこのメッセージをいろいろな人達に届けようというんだ？ 自分たちで負わなければならないリスクもあるんだ。簡単にしすぎたら、かえって無秩序になり、混乱することだってあるのだ。」

その後の歴史はよく知られたことである。わずかな元手しかない状態で着手した本は“アルコールクス・アノニマス”というタイトルとなって発行された。そのときのタイトルの案のなかには、“100人の男たち”“からのグラス”“断酒への道”“出口”などがあつた。ビルはAAの伝記“PASS・IT ON(手渡していくもの)”の202ページには、「はげしいことに自分自身のエゴのために、“B・Wの運動というタイトルを提案することさえした」と書かれている。興味深いのは、“100人の男たち”というタイトルが候補からはずされたのは、当時たった一人の女性メンバー、フローレンスの反対にあつたためだという。しかしながら実際は、タイトルのページに“100人以上の男たちがどうやってアルコールリズムから回復したかを語る”と書かれた。第2刷でこれは“何千人もの男女”と変わり、第2版、第3版では“何千人もの人達”となっている。

発行後まもなく、当時人気のラジオ・アナ、ガブリエル・ヘターが自分の番組でこの新刊本について特集した。放送から3日後、AAの創始者たちは、中身の人っていない大きなスーツケースを何個も引きずりながら郵便局の私書箱まで行った。山のような注文のはがきを取りに行ったのだったが、届いていたのはたった2通の心細げな問い合わせだけだった。本が完成しても売上は一向にふえず、生まれて間もないこの集まりはほぼ5千冊もの売れない本の山と、それにとまなう多額の借金を抱え、途方に暮れていた。

1941年の3月に、今はすっかりおなじみになったあのジャック・アレクサンダーがAAについて書いた記事が“サタデイ・イブニング・ポスト”に連載され、ビッグブックの売上は急上昇した。すぐさま第2刷が手配された。

ビッグブックの最初の草稿はビル・Wが酒をやめてまだ4年にも満たないうちに書き上げられたことは、広く知られている。しかしビルがひとりで完成させたわけではない。この本はたくさんの人達によ

って共同で作られたものだと言える。なぜなら各章はアクロンやニューヨークにいるAAメンバーたちが—その全員がビルよりもまだ飲まない期間が短かったが—“編集”したからだ。この共同作業は、小さな集まり全体の総意と経験が分かち合われたものの集成であり、今日のAAを特徴づける、グループの良心によつてものごとが決定されるまでの過程が、このときに具体化されたことを示すものだ。

ここで大事なことは、この本が作られたことにより、たった100人ほどのメンバーしかいないアルコールク財団と呼ばれていたこの小さな運動に、名称がつけられたことだ。この本のタイトルがその名前になった。現在アルコールクス・アノニマスの集りは146カ国に広がり、2百万人のメンバーがいる。12のステップによる生き方は、アラノン、ナーコティクス・アノニマス(NA)、ギャンブラーズ・アノニマス(GA)、オーバーイーターズ・アノニマス(OA)といったいくつもの集まりのモデルにもなっている。

ビッグブックの最初の百万冊が売れるまでに35年間かかった。しかし現在は、英語版だけでも年間百万冊以上が売れ、1996年末の時点で総販売部数は1千8百万部をマークした。ページ数は575ページでハードカバーもソフトカバーもあり、現在34カ国語に翻訳されている。アフリカ、アラビア、チェコ、オランダ、フィンランド、フレミッシュ、フランス、ドイツ、ハンガリア、アイスランド、イタリア、日本、韓国、ノルウェイ、ポーランド、ポルトガル、スペイン、ロシア、スウェーデン語等である。

また、1993年8月には、第2部についてはドクターボブとビルの個人の物語りの部分以外は抜き、あとはビッグブックそのままを小型にした手帳版ビッグブックも発行されている。

現在第3版が出ているが、第2版が出たのは1955年で、第3版は1976年発行である。AAの記録古文書のなかには、第2版にむけてのビルの覚書を添えた手紙のコピーが保管されている。そこには「改訂の目的の第一の理由は、個人の物語の部分をも今の時代の人達のものにすることで、AAで助かった人たちの幅広い層を描き出すことだ。この本を読む人というのは、これからアルコールクス・アノニマスにやってくる人達だ。もうすでにAAに来ている人達は、わたしたちの話を直接耳にしている。この本の読者は、むしろ新しい人達だと思う。したがってこのプログラムのことをよく知らない人達がこれを読んで不快感をもったり、遠ざけたくなるような内容やスタイルは、細心

の配慮で削除していくべきである」というビルの注意書きが添えられている。

ビルはさらに「編集方針の基本」もリストにして掲載しているが、それらは40年を経た今日でも通じるものである。その一部を紹介したい。

1. 現実的なものにしようと思いが強いあまりに、かえって非現実的で何を言っているのか分からなくなるようなことが起こらないよう、編集によってそれを避けられるなら、しりごみせずにどんどん切っていく。

2. 神を冒瀆するようなものは、それほどひどくなくても、非難のように聞こえ、ほとんど役立つことはない。避けるべきだ。

3. 聞いてだれもがわかる地名以外は土地の名称は具体名を用いない。

4. 物語りは、年代順であれ、もしくはそれぞれの書き手が強調したいことであれ、一貫した順番にする。

5. “売りこみ”や“仕掛け”は一編集上であれ何であれ一避けるべきである。個人の物語りの部分は“受け”を狙う一般誌ではない。取り上げ方も体裁も、飾らずに、率直でありのままにすべきである。

6. ユーモアは書き手の人となりや話の状況の中からにじみ出てくるべきもので、ギャグで笑わせるようなものであってはならない。

7. 最終的に編集が目指すものは、読みあげたときスムーズに聞こえるものにすべきである。クローズドミーティングなどでつかえずに読めるようなものにする。

11章までの本文は、ビッグブックが版を重ねてもつねにそのままの形で残されている。しかし、個人の物語の章は、メンバー構成の移り変わりにとともに、改められたり、別のものに変更されてきた。たとえば、女性や若者、薬物依存もあわせもつ人の数が増えているからである。世界中のどこに住むアルコールクであれ、その必要性に応じていこうというこれらの試みこそが、ビッグブックがAAメンバーのもっとも役立つスポンサーだといわれる由縁なのだろう。

なお、AAの出版物はAA全体に所属するものであり、したがって、AAワールドサービス社(AAWS)が世界中の全メンバーの委託を受けて著作権を保有している。各国における翻訳、発行の認可は、その国のひとつの実体(日本ではJSO)のみに与えられている。複数の実体がそれぞれ無認可でAAの出版物の翻訳、発行をはじめると、国内のAAの一体性が弱められ、AAの将来の成長にも深刻な影響が及ぶからである。

中国吉林省延辺地区でAAグループが活動しています

ニューズレターの前々号でアジアやオセアニアの国々を訪問する予定のあるメンバーの方々に、訪問先の国でAAが開催されていたら、情報をお知らせいただきたいという呼びかけを行いました。それに応えて早速、中国吉林省延吉市(北朝鮮との国境域)で1年半前から韓国語のAAを続けているというメンバーから、その開始に当たってメッセージを運ぶ手伝いをした日本のAAメンバーを通じてお便りが届きました。詳しい内容はBOXに掲載されています。まさに国境を超え、人種や言語を超えて、メッセージが運ばれ、ソブラエティがもたらされていることに感動を覚えています

どうぞこれからも、特にアジアの国々でAAのミーティングが行われているという情報が入手できましたら、JSOまでお知らせください。

AOSM事務局

J S O 業務日程変更のお知らせ

これまでJSOの業務日程は土、日、祝日を除く平日と、ボックスが発行されるおおむね第4週の土、日の10時から18時までとさせていただいておりましたが、第4土日のJSOのご利用がこの2年間にほとんどなかったため、来年の1月からは平日のみの業務とさせていただくことになりました。ご不便をおかけする方もあろうかと存じますが、どうぞご理解いただけますようお願い申し上げます。なお、年末は土、日を除いて31日まで業務しております。

どうぞ、よいお年をお迎えください。この1年のみなさまのご支援を感謝します。

